

高知医療センター 新年のご挨拶

にしじ

畠中伸介企業長、堀見忠司病院長	P2
深田順一副院長、谷木利勝副院長、武田明雄副院長	P3
岡部学循環器病センター長、村田厚夫救命救急センター長	P4
吉川清志総合周産期母子医療センター長、森田荘二郎がんセンター長	
西岡豊地域医療センター長	P5

■ 高知医療センターの新たな機能：精神科診療	P6
■ 平成24年4月にドクターヘリ場外離着陸場ができます	P7
■ 高知医療センターイベント情報	P8



JANUARY.2012 Vol.75

謹賀新年



謹んで新年のお慶びを申し上げます。（写真：高知医療センター屋上ヘリポートより）

- 高知医療センターの基本理念
医療の主人公は患者さん
高知医療センターの基本目標
1. 医療の質の向上
 2. 患者さんサービスの向上
 3. 病院経営の効率化

謹賀新年：新年のご挨拶



企業長 畠中伸介

新年明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災という未曾有の災害が発生し、その被害の大きさにただ呆然とさせられました。それとともに改めて、

いずれは発生する南海地震の恐ろしさを目の当たりにした思いです。南海地震に対しては、ハード面の対策はもちろんのこと、何よりも一人ひとりの「備え」が非常に重要であると感じたところです。改めて、基幹災害医療センターである高知医療センターの災害への「備え」に万全を尽くしていかなければならないと思っています。

また、今回の地震では、自然の力に対する人間の「弱さ」と、復旧・復興にむけた「強さ」を見ました。地震で地域と人の「絆」がこれでもかというまでに破壊され、そこから復興に向け新たな地域と人の「絆」が生まれ立ち上がっていく姿を見ると、人と人、地域と地域のつながり、連携がいかに大切であるか再認識したところです。

高知医療センターにとりましても、県民・市民の皆様そして地域との連携が非常に重要であることを再認識し、連携なくして当センターの運営はできないと肝に銘じて取り組んで参ります。

本年は、4月の精神科病棟の開設、またヘリ駐機場の完成によるドクターヘリの本格運航と、さらに一段と飛躍する年になります。これまで以上に、地域の医療機関、消防団体などとの「絆」を強め、地域からも県民・市民の皆様からも信頼される医療の提供に努め、皆様の期待に応える高知医療センターとなるよう全力でがんばって参りますので、本年も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

最後に、東日本大震災で被災されました皆様の早期の復興を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



病院長 堀見忠司

「四国の医療の要；高知医療センター」を目指して、新春を迎える

昨年の未曾有の国家的災害の記憶がまだ生々しく残っていますが、高知医療センターから、新年のご挨拶を申し上げます。

高知県の『県民医療の最後の砦』として開院しました高知医療センターは、今年で8年目に突入します。この間、成長への階段を少しずつ登ってきましたが、「四国の医療の要」を目指した取り組みを推

し進めることにより、高知医療センターの存在意義と存在価値は、ますます大きなものになり、以前にも増して県民・市民の皆様が頼れるそして誇れる病院として、お役に立つことができるようになって参りました。

昨年も、私は『ダーウィンの進化論』を引用して、「変化は進化」を唱え、「全ての生物界において変化するもののみが生き延びる」という話をさせていただきました。そして高知医療センターにおける経営改善の取り組みをはじめとして、ドクターヘリやドクターカーの導入による救命救急センターの充実、ITセンターの開設、身体合併症や小児精神科等を担当する精神科病棟の併設など次々に取り組みされた企画は、新たな変化を生み、そして新たな進化を生むようになりました。また高知医療センターにおいて特筆される「スペシャルな医療」についても、まさに県民・市民の皆様になくしてはならないものになっています。

今年も、更なる変化を求め、より県民・市民の皆様にも密着した「夢と希望」に溢れる高知医療センターとして、新たな成長と歴史を築いていくことをお約束して、新年のご挨拶とさせていただきます。





副院長・ITセンター長 深田 順一

皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのことと、こころよりお喜び申し上げます。日頃は高知医療センターとの地域医療連携に対して深いご理解とご支援を賜っておりますこと、改めて厚く御礼申し上げます。

特に昨年後半にはそれぞれの医師会、歯科医師会の理事会にお邪魔致しまして、今春の本院の統合情報システム更新に伴って新たにスタートさせるべく予定しております、「インターネットを経由しての、地域での本院電子カルテ画面の閲覧サービス」について説明させていただきましたが、幸いに、お伺いさせていただいたすべての医師会・歯

科医師会で、極めて好意的にお聞きいただけたようで、スタッフ一同、大変に嬉しく、また心強く思っております。このサービスは本院と先生方、そして先生方の施設を受診中の患者さんとの距離感を、大きく近づけるものと確信しておりますので、引き続き、その準備に全力を尽くしたいと思っております。

それから昨年は、これまで年2回のペースで開催してまいりました、先生方からご紹介を受けた内科系疾患患者さんの内、教訓的なケースの臨床経過を報告させていただく、「高知医療センター・内科系症例報告会」が、その開催が10回を越えるに至りました。これまでの症例はそのエキスを「にじ」誌上に掲載して参りましたが、今後もこの方針で参りたいと思っております。外科系の症例発表会共々、ご愛読の程、よろしくお願いいたします。



副院長・感染対策センター長 谷本 利勝

新しい年を迎え、本年が平和で明るい年になるようにと願い、ご挨拶いたします。

昨年23年3月11日は未曾有の大災害、東日本大震災がありました。ちょうど手術中のことで、術後自席に戻ると、院内では災害対策本部が設置され、DMAT(disaster medical assistance team)；災害医療援助チームの派遣についての緊急会議中で、即刻の対応がなされていました。テレビでは津波の映像が繰り返され、福島原発事故もあり、暗いニュースが続きましたが、2011年の漢字には「絆」が選ばれて、人々の前向きに歩き出そうという姿勢が感じられます。私事ですが、昨年の4月に一時期体調を崩し、多くの方々にご迷惑をおかけしました。やなせたかしさんの言葉に「幸福は

幸福なひとにはみえません。もしも不幸になったら、その時幸福がみえるはず。」があります。この言葉を借りると「健康は健康なひとにはみえません。もしも病気になったら、その時健康がみえるはず」になります。自分自身が病気になって健康のありがたみを実感しましたが、すっかり元気になってから、それを忘れそうになり、自戒しています。昨年10月に国民健康保険功績者厚生労働大臣表彰を受けました。国保関係や院内でも祝賀会を開いて下さり、感謝しています。病院の本来の任務は患者さんの医療の質やアメニティーの向上ですが、医療経済も考えざるを得ない時代になっています。院内感染対策、ベッドコントロール、診療報酬などの委員会では関係各位の方々大変お世話になりました。今年の4月には診療報酬が改定されますが、マイナスであれば大変です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



副院長・医療安全管理センター長 武田 明雄

謹賀新年 皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

医療センターは高知県の基幹型臨床研修病院として、毎年初期臨床研修医(以下研修医)を受け入れており、来年度は12名の研修医を採用予定です。これまでは、高知県出身者が殆どでしたが、今年は高知県出身者が12名中7名で、他は岡山県2名、静岡県、愛知県、福岡県各1名と県外出身者が多く、医療センターの魅力が全国的に広まっていることを示しています。

厚労省は臨床研修の基本理念として、「臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は

疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。」と定めています。「かん養」は「涵養」とも書き、「涵」はひたすという意があります。従って、若き医師に、医師としての人格を「水が自然にしみこむように、少しずつ養い育てる」という意味になります。

当院の研修プログラムは、内科6か月、救急3ヶ月、地域医療1ヶ月以外に、外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科も1ヶ月必修としています。来年度精神科が新設され、神経内科以外のすべての診療科がそろいます。質・量とも豊富なスタッフ、症例数を基に基本理念に沿ったしっかりと研修を受けられるものと確信しています。

近い将来、研修医フルマッチとなり、高知県医療の「最後の砦」を守るべく医師確保に尽力するつもりですので、今後ともよろしくお願い致します。



循環器病センター長 岡部 学

皆様、新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、県民・市民の皆様、地域の各医療機関の皆様方の深い御理解と多大な御支援をいただきながら、当循環器病センターが日々の医療に従事出来ました事を心から感謝申し上げます。

当循環器病センターは、1年・365日・24時間、循環器専門医が常駐し、救急患者の受け入れ直後より専門医による循環器疾患救急治療が提供できる県下で唯一の施設であります。受け入れ直後の診断・カテーテル治療から最終的的外科手術治療まで、循環器専門内科・外科チームにより切れ目ない迅速な治療を行なう事で多くの大切な命を救う事ができました。今年も、この循環器専門医による高度救急救命医療体制を維持し、更に発展強化してまいります。

社会の高齢化に伴う疾患の高齢化・重症化により、特に循環器疾患におきましては、より安全性の高い低侵襲治療と全身状態からみた集学的治療が求められるようになっております。

低侵襲治療としましては、虚血性心疾患・不整脈・末梢血管疾患に対するカテーテル治療を更に充実するとともに、大動脈瘤をはじめとする大血管疾患や弁膜症に対してもカテーテル治療の適応を拡大し循環器疾患治療の低侵襲化を積極的に進めてまいりました。従来侵襲性が高いとされてきた大動脈瘤手術においてもカテーテル治療(ステントグラフト治療)を積極的に導

入し、年間130例を越える大動脈瘤手術の半数以上を開胸・開腹する事なくステントグラフトでカテーテル治療し、今まで治療困難とされてきた90歳以上の超高齢患者さんや超重症患者さん全員を低侵襲に無事救命する事ができました。また、心臓を止めない体に優しい「低侵襲心拍動下バイパス手術」の総数は既に900例を超え、手術数・成績ともに全国のトップランナーとして走り続けております。

高齢化社会に対応した集学的な循環器疾患治療としましては、循環器内科・外科のみでなく、栄養管理指導、薬剤管理指導、心臓リハビリテーション等のコメディカルを含めた循環器病センター全職種・全員が一人の患者さんにチームとして集学的にかかわる事で、診断から治療・管理・リハビリ・社会復帰まで循環器疾患全治療行程に対して完成度の高い治療システムを構築してまいりました。

今年、これら当循環器病センターの低侵襲で完成度の高い治療システムを、地域支援病院として高知県民・市民の皆様、地域の医療機関の皆様方により効率的に利用していただく為の年としたいと考えております。

必要な場所で、必要な時間に、必要なタイミングで当循環器センターの治療システムを有効に御利用いただけるよう、地域に積極的に出向き、日々の循環器疾患医療に貢献して行きたいと考えております。

今年も一層の御指導・御鞭撻・御支援をいただきますよう心からお願い申し上げます。



救命救急センター長 村田厚夫

皆様、新年明けましておめでとうございます。

さて、昨年は、私ども救命救急センターとしては、高知県ドクターヘリの基地病院としての命を受けて、スタッフが丸となって、一層充実・進化した救急医療活動を行う「使命感」を持ってスタートしました。ドクターヘリ運航開始式の、まさに前日！平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、当救命救急センターも、厚生労働省・高知県の要請を受けて、ドクターヘリで日本DMATチームを岩手県に派遣しました。さらに、4月からは、宮城県陸前三陸町の医療支援部隊を4チーム派遣することも出来ました。出動した当院のスタッフの勇気と情熱に感謝すると共に、その間、当救命救急センターを守ったスタッフ達にも感謝しております。

高知県ドクターヘリ事業は、その後順調に活動を続けることが出来、年間350-400件のドクターヘリ活動が行える予定と見えます。地域の医療機関の皆様、各消防機関の皆様、そして、

地域の住民の皆様のご理解を得て、今後も「安全」かつ「迅速」な救急医療を展開していきたいと考えております。もちろん、従来通り、高知県消防防災ヘリ「りょうま」による救急活動も、引き続き行っており、「高知の空」からの救命医療を展開します。また、平成22年夏から運行している欧州型ドクターカー(FMRC)も、主に近郊の消防機関の要請を受けて、年間60-70件の出動を行っており、ドクターヘリと合わせて、「より速く患者さん、傷病者と接触して、救命活動を開始する」という強い姿勢・意識を持って、これからもスタッフ一同、力を合わせて高知県の救命医療に貢献したいと思います。

一方、南海・東南海沖地震対策も高知県基幹災害拠点病院として綿密な準備も行っており、今年も高知県内各地で、関係諸機関と協力した「実践的訓練活動」も行う予定です。もちろん、高知県だけでなく、四国各県、さらに中国地方、西日本、日本全国とも、あらゆる手段を用いた「平時からの連携」をより高めることも、今年の大きな目標の一つであります。

「目の前の命を大切に」をモットーに、今年も精一杯救命救急センターの使命を果たしていくことを誓います。



総合周産期母子医療センター長 吉川清志

明けましておめでとうございます。

平素は総合周産期母子医療センターの運営にご協力いただき有難うございます。関係者の皆様のご理解とご支援により高知県内で完結する周産期医療が継続できております。

平成 22 年の高知県の指標を見ますと、出生数 5518 人 (5415)

で、47 都道府県の中での順位は周産期死亡率 5 位 (3)、新生児死亡率 25 位 (3)、乳児死亡率 40 位 (2) でした。非常に良い成績であった平成 21 年の指標と比較しますとやや悪いものの、出生数のさらなる減少はなく、乳児死亡率以外は全国平均と同じかそれよりも良い値でした。

赤ちゃんの健やかな成長は、その家庭のみならず高知県の喜びです。そのために、周産期医療に関わる方々は日々研鑽さ

れるとともに高知県の周産期医療体制をご理解いただき、それに従って行動してください。当院に入院できない場合もありますが、必ず適切な医療機関に入院できる体制ができています。また当院では、4 月から新生児担当小児科医が 1 名増え 3 名となり、25 年 4 月から NICU3 床の増床を計画し、受け入れ態勢を強化しています。

一方で、健康な赤ちゃんの誕生には妊婦さんの協力が不可欠です。定期的な妊婦健診を受けてください、健診料はほとんど無料です。妊娠中の食事・運動・睡眠などについて、妊婦さん自ら注意し、周囲の方も気配りしていただき、小さな赤ちゃんを産まないようにしてください。気になる症状が現れたらかかりつけ医や救急医療情報センター (088-825-1299) に連絡しましょう。

私たちは、妊婦さんの健康を守り、元気な子どもの声が聞こえる家庭づくりを目指して精一杯やりますので、今年もご協力をお願いします。



がんセンター長 森田荘二郎

謹んで新春のおよろこびを申し上げます。旧年中はがんセンターに多大なるご支援をいただきまして、心より感謝いたします。

昨年より、高知医療センター経営改善アクションプランを策定し、その中で目標とした課題をクリアすべく活動を行って参りました。その結果、以下のような成果をあげることができました。

1. 進行がん患者さんの初回、ならびに再発時の治療開始前に、手術、抗がん剤、放射線治療、緩和ケアの専門医師、およびがん専門看護師、薬剤師、放射線治療専門技師、管理栄養士、理学療法士などが集まって、治療法の選択について協議する「キャンサーボード」の運用を開始しました。
2. 地域の先生方とがん診療の情報を共有する「地域がん診療連携パス (胃がん、大腸がん、肝臓がん、肺がん)」を作成し運用

を開始しました。それに伴い、登録連携施設の先生方には「がん治療連携指導料 (月 1 回 300 点)」の算定をしていただけるようになりました。

3. 緩和ケア内科外来を開設しました。また、入院患者さんへの緩和ケアチームの診療にあたり、「緩和ケア診療加算」が算定できるようになりました。

本年も、がんセンターの診療内容をさらに充実させていくとともに、アクションプランのタイムスケジュールにあわせて、以下のような取り組みを進めて参ります。

1. がんセンターフロア開設の検討
2. 臓器別治療チーム設立の検討
3. 放射線治療拡充の検討
4. PET-CT 導入の検討
5. 緩和ケア病棟開設の検討
6. 各がん種別の 5 年生存率の HP での公開

本年度も昨年同様、多大なるご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



地域医療センター長 西岡豊

謹んで新春のお喜びを申し上げます。皆様すこやかに新春をお迎えのことと存じます。

日頃は、高知医療センターとの医療連携にご理解とご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

昨年も地域医療センターでは、医療連携強化に向けて様々な新しい取り組みを行ってきました。人員配置

に関しては、MSW を 2 名増員、総勢 7 名とし、地域の医療機関との連携がより迅速・円滑に行なわれるように配慮しました。さらに一昨年同様、医療従事者の方々に向けての研修会 (地域医療連携研修会、等)・講演会・症例検討会を積極的に開催し、各医療機関、郡市医師会の訪問等を精力的に行い、より顔の見える開かれた地域医療センターを目指してきました。また、登録医療機関への登録医証の発行とともに、連携医療機関一覧の院内掲示を始めました。さらに昨年は、高知医療センター中期経営改善計画アクションプランとして、「地域医療センター

の充実」、「地域医療連携強化による紹介・逆紹介の促進による患者数の確保」に取り組み、目標達成に向かって努力を続けています。

高知医療センターでは、本年より、精神科病棟開設、ドクターヘリ駐機場建設、WEB 型電子カルテを含む次期電子カルテシステムの導入等の新しい取り組みが予定されており、それに伴い地域医療連携の強化もより一層充実させていく必要があると考えます。特に、国の地域診療情報連携推進事業により進められ、「複数病院での共同利用とデータ共有による、1 患者 1 カルテの実現」を目指して導入予定の WEB 型電子カルテにおいては、複数の医療施設が電子カルテや医用画像などの診療情報を容易に共有でき、より一層の地域医療連携強化を実現できると期待されています。

今年も、高知県の基幹病院の地域医療センターとして、地域医療機関及び患者さんの安全・安心・信頼の確保に向けた地域医療連携を機能させる責務があると考え、精一杯の努力を重ねてまいりたいと考えております。旧年中と同様、今年もご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

高知医療センターの新たな機能：精神科診療

本年4月から、「こころのサポートセンター」での精神科診療を開始します

高知医療センターでは平成24年4月から、現在の病院機能に加え、新たに本格的な精神科診療機能を加えるべく、現在、その準備を急いでおります。

この準備に当たっては、まず、高知医療センターでの今後の精神科の役割やその具体的な運用について、本院内外の委員の参加を得た精神科病棟運営検

討委員会で議論を重ねる一方、病棟の建設工事、職員の研修や業務マニュアルの作成などの準備もこれと並行して進めてまいりましたが、現在、その概要が中間とりまとめとして以下のようにまとまっております。

1 精神科の基本的な機能・役割

現病院の持つ機能を活用し、高知県全体を対象として、民間では対応が困難な精神科医療を行うものとし、特に身体合併症、児童・思春期について重点的に対応することにします。

また、入院医療を最優先に行い、限られた病床を有効に活用するため、入院中から関係機関との連携を深め、急性期の治療後は速やかに、それぞれの機関に引き継ぐものとします。

2 精神科の位置付け・名称

高知医療センターには現在5つのセンター機能がありますが、これに精神科を加え、6つ目のセンターとして位置付け、名称は、「こころのサポートセンター」とします。

がんセンター、循環器病センター
地域医療センター、救命救急センター
総合周産期母子医療センター
+
こころのサポートセンター

3 精神科病棟の規模

- 1F：外来、院内学級等
- 2F：病棟
病床数は44床
『成人』が30床
『児童・思春期』が14床
- 3F：屋上広場



こころのサポートセンターの完成予想図

4 <成人>の具体的な運用

①病棟の具体的な運用

- ◆30床のうち隔離室（保護室）8床で運用します
- ◆高知県精神科救急医療事業の輪番病院及び他の輪番病院の後方支援を行います
- ◆精神科病棟にケースワーカーを置き、短期入院後の受け皿を早期に調整します

②外来診療

- ◆成人外来を1診置き、医療機関等からの紹介予約を基本として運営します

5 <児童・思春期>の具体的な運用

①病棟の具体的な運用

- ◆ 14床のうち隔離室（保護室）2床で運用します
- ◆ 専門のケースワーカーを置き、入院の早期から家族をはじめ、福祉、教育等の関係機関との調整を行います
- ◆ 対象は原則として15歳以下の精神疾患のある子供です
- ◆ 疾病区分ごとの対応です
 - 発達障害（広汎性発達障害、自閉症、注意欠陥・多動性障害（ADHD）など）：行動障害や合併する精神疾患があり、薬物療法や入院治療が必要な場合が主な対象です
 - 精神疾患（統合失調症、躁うつ病、強迫性障害、摂食障害など）
 - 児童相談所からの紹介ケース：社会的・法的な対応が必要なケース以外はすべて対応します
 - 不登校・ひきこもりなど、個人の病理が精神疾患として顕在化しているものではないが、教育機関や家庭で困っているケース：発達障害・精神疾患が明らかにベースにあるケースに対応します
 - 心身症や身体化障害のケース：小児科と連携して対応します
 - 重度の発達障害（重度の精神遅滞（MR）、重度の自閉症など）：身体合併症の治療が必要になった際の入院治療

②外来診療

- ◆ 完全予約制としますが、事例ごとに緊急度を勘案して予約を受け付けます
- ◆ 入院を前提とした患者の診察や院内紹介及び児童相談所からの紹介などは別枠で対応します

なお、これらの詳細については最終的に決まりましたら改めてお知らせします。新しくできる精神科病棟では、大学・民間病院等との医療連携や、保健・医療・福祉・教育等関係機関との間の連携体制を構築することが課題となりますので、関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

平成24年4月にドクターヘリ場外離着陸場ができます

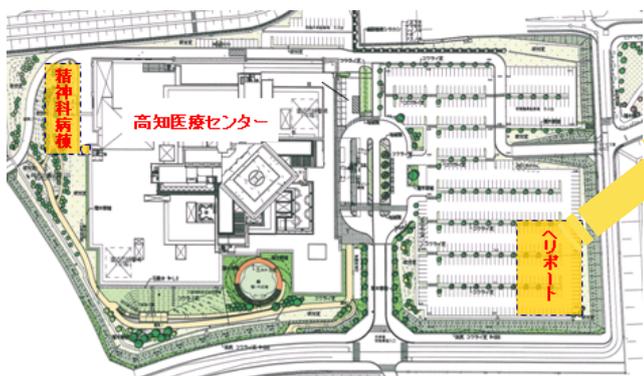
同じく平成24年4月に外来駐車場の一角に、格納庫、給油施設を備えたドクターヘリ場外離着陸場が完成し、ここを基地とするドクターヘリの運用がスタートします。

昨年3月から運用がスタートした高知医療センターのドクターヘリ「勇気の花号」は午前8時半から日没まで、県内全域を対象に救急患者の搬送に当たってきており、出勤回数は運行開始から8ヶ月で250件超と、順調なスタートとなっております。

しかし現在の運用では、その基地は高知空港であり、ここから早朝に医療センターに移動し、日没30分前には再び、高知空港に帰還する、という動きを繰り返す形

になっており、出勤に当たっての給油や悪天候時の避難などに時間を要しております。このため当初から、より病院の近くに格納庫、給油施設を備えたドクターヘリ場外離着陸場を整備する必要性が指摘されており、今回の整備はこれを受けたものです。完成後は、より効率的な運行が可能となるはずですし、出勤までの時間も短縮し、より早期の治療開始が期待できます。

工事期間中や完成後のヘリの離発着時には、駐車場等を利用される皆様にご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



高知医療センターイベント情報 ～1月～

16	月	平成23年度高知県立大学看護学部・第2回冬の公開講座 (参加費不要、事前申込要1/13日までに。定員150名)				
		内容	モチベーションマネジメントとは？	講師	NKNエグゼクティブディレクター 北浦暁子 氏	
		場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	18:00～20:00	対象
本講演は高知県立大学健康長寿センター・高知医療センター看護局との包括連携事業の一環です。 お問い合わせ＆お申込み先:高知県立大学看護学部・事務 FAX:088(847)8750						
21	土	第20回(平成23年度第3回)高知医療センター地域がん診療連携拠点病院公開講座 (参加費無料、事前申込不要)				
		内容	脳腫瘍の治療	講師	高知医療センター 脳神経外科 医長 岡田憲二 氏	
		内容	婦人科がんについて		高知医療センター 婦人科 科長 木下宏実 氏	
		内容	肝がんの治療と予防		高知医療センター 消化器内科 医長 宇賀公宣 氏	
場所	安芸商工会館 2F大ホール	時間	14:00～16:30	対象	一般	
主催:高知医療センター お問い合わせ:高知医療センター 医事課						
22	日	高新・高知医療センターがんセミナー～みんなが知りたいがんのこと～				
		内容	婦人科がんの診断と治療	講師	高知医療センター 婦人科 科長 木下宏実 氏	
		場所	高新文化教室(RKC高知放送南館4F)	時間	10:30～12:00	対象
主催:高知新聞社、高知医療センター 共催:アフラック高知支社 主管:高知新聞企業 お問い合わせ:高新文化教室 電話:088(825)4322 参加費:受講料¥9,600(全12回分)1回の場合は¥1,500						
24	火	第6回救命救急センターセミナー (参加費無料、事前申込不要)				
		内容	中毒の臨床 ～クリニカル・トキシコロジストの役割～(仮)	講師	北里大学病院 救命救急センター 上條吉人 氏	
		場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	18:30～19:30	対象
お問い合わせ:高知医療センター・救命救急センター 電話:088(837)3000(代)						
28	土	第21回地域医療連携研修会 (参加費無料、事前申込不要)				
		内容	講演①:当院での腹部救急疾患に対する治療について～よくある疾患の手術治療を中心に～	講師	高知医療センター 消化器外科・一般外科 主任医長 中村敏夫 氏	
		内容	講演②:経管投与の問題点と新しい手技～簡易懸濁法導入のメリット～		高知医療センター 薬剤局 医薬品情報科長 段松雅弘 氏	
		場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	14:00～15:40	
お問い合わせ:高知医療センター 地域医療センター地域医療連携室						
31	火	高知医療センター看護局集合研修・他施設公開研修 (参加費無料、事前申込要)				
		内容	家族看護の基本を知ろう	講師	高知県立大学看護学部 教員	
		場所	高知医療センター 1F 研修室2、3	時間	18:00～19:30	
お問い合わせ:高知医療センター 地域医療センター地域医療連携室						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。日頃は、地域医療機関の皆さまとの連携におきまして、ご理解とご協力を頂き深く感謝申し上げます。昨年4月に地域医療連携室に就任致しました頃は、慣れない業務と未知の体験に失敗続きではありましたが、少しずつ自分の役割と業務の流れが見えてくるようになりました。今年も地域医療機関の皆さまの率直なご意見やご要望等をお伺いし、さらに丁寧にお返事ができるよう一層努力を重ねてまいりたいと思います。また地域医療研修会におきまして、患者さんをはじめ地域一般住民の方の参加も見られるようになっております。地域医療支援病院の役割としても、今まで以上に内容を充実させていきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。(地域医療連携室 岡村久子)



平成24年1月1日発行
にじ 1月号(第75号)
責任者:堀見 忠司
編集人:地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元:地域医療センター
地域医療連携本部
印刷:共和印刷株式会社
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター

〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp

8 Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www.khsc.or.jp/>